

令和6年度第2回あおもり未来ミーティング（青森市浪岡町内会連合会）会議概要

日時：令和6年7月5日（金）18:00～19:24

場所：青森市浪岡中央公民館 3階 会議室（1）～（3）

テーマ：助成金の使途制限について ほか

参加者数：13名

市側出席者：市長、副市長、企画部長、市民部長、福祉部長、保健部長、農林水産部長、浪岡振興部長

■前回いただいたご意見への対応状況

⇒配付資料のとおり

■主なご意見等

○テーマに関するご意見等

・浪岡地区では人口減少及び後継者不足が大きな問題で、浪岡地区の重要な産業であるりんご栽培や果樹栽培でも後継者不足が著しい。今後の浪岡地区の将来を見据え、どのような対策が必要か、教えてほしい。
⇒浪岡地区はかつて人口2.1万人以上の町であったが、現在は約1.67万人まで減少している。この10年では人口が12%減っており、中でも20～30代の若者世代が30%以上減少している状況にある。このため、浪岡地区において移住・定住対策に重点的に取り組むこととしたところであり、今年4月には浪岡地区の移住・定住促進協議会を設立した。県外から若い人を呼び込んで浪岡ファンになっていただき、いずれ二地域居住や移住につなげ、最終的には浪岡に定住してもらう取組を進めていくこととしている。あわせて、空き家の問題、空き店舗の活用、担い手不足対応なども含め検討していくこととしている。今般、赤川町内会にある空き家を借り上げ、リノベーションをし、移住ワーケーションの体験施設を整備したところであり、既に15人から予約が入っている。県外から来る若い人には地元の若手事業者や各町内会等の地域の団体の皆さんと交流してもらい、将来的には浪岡で起業・創業したり、副業として浪岡の事業や農業に貢献いただけるよう尽力してまいりたい。

⇒農業の後継者不足対策として、農業が将来を担う若者にとって魅力的選択肢であることの啓発、農業の社会的価値を強調することによるイメージの向上、新たな農業技術を活用した農業の魅力の発信、新たに農業を始めるための資金やリスクを軽減するための支援制度の充実、新たに農業を始めた人が孤立しないよう、農業コミュニティ全体で支えていく仕組みづくりといった環境を整備していくことが大変重要であると考えている。具体の事業としては、農業に従事する人づくりとして認定農業者の育成、農作物を作る農地の環境整備としてりんご園地若返り事業、水田の圃場整備事業を実施している。また、農業生産現場での省力化や生産性向上に向けたロボット技術や通信技術を活用したスマート農業の普及、農業者の所得向上や競争力のある農産物の作成のために、浪岡地区であればバサコーン等をはじめとしたブランド力強化事業の実施等に取り組んでいる。さらに、これらの取組によって生産された農産物については、市長自らも県内外、国内外に赴き、トップセールスを行っている。これらの取組を通して、浪岡地区の農業や地域の活性化や持続的な発展に取り組んでいきたいと考えている。

○テーマ以外に関するご意見等

・子育て世帯が安心して仕事も子育てもできる職場環境づくりの取組について聞きたい。

⇒青森市役所では、子の看護休暇を休暇制度の中に位置付けている。また、父親もしっかり育児に参加するように育児休業制度を奨励し、育児休業を取得した男性職員を市長が職場を訪問し、お祝いメッセージカードを贈呈している。母親に育児を任せきりにせず2人でしっかり育てていくことにより、母親が専業主婦であっても心にゆとりができ、共働きでもお互いに休みながら育児をできるような環境の整備に努めている。市役所が模範となり、民間企業にも広めていきたいという思いで取り組んでいる。

・AI デマンド交通は多くの利用者がいると実感しているが、4月から実施して行政に届いている課題や問題点、利用者として気を付けなければならない点があればお知らせ願いたい。

⇒予約が基本前日であり、午後の便も当日の朝9時までとなっていることから、もう少し柔軟に対応できるかどうかを事業者と協議している。ぜひもっとご意見をいただき改善してまいりたい。